

# ことわざの森に出かけてみよう



藤村美織

東京オリンピック・パラリンピックに向けて準備が進められている。開催国として、異なる言語、文化、宗教の人々の多様性を認め、受け入れて、共生社会の実現をめざそうという流れも加速してきている。このタイミングで、『世界ことわざ比較辞典』が刊行されることになった。

日本語の常用ことわざ三〇〇を軸に、二五言語と地域で同じような意味のことわざが並ぶ。古今東西、人々の暮らしや思いは、さほど変わらない。その共通性に驚かされる一方で、表現は文字どおり多様性に富む。

さて、辞典は一日にしてならず。着手

り、ドイツ語と向き合った。

日本語と外国語で、ことわざの構造、意味がびったりと一対一の対応をするとは稀で、一つのことわざが、複数の言い回しと重なってることが多い。どれをとって、どれを外すか。意味の重なりを重視するのだが、これが容易ではない。さらに常用度の問題もある。文殊の知恵にすぎりつつ、会を重ねていった。やがて日本語のことわざと各国語で対応することわざの日本語訳を並べたリストがまとめられた。

二〇一三年頃、この作業が一段落すると、日本語の項目に各言語のテキストも

したのは二〇一〇年のことだった。気がつけば一〇年の歳月を費やした。瞬く間に時が飛び、我が身もそれだけ年を重ねたということだ。光陰矢の如し……と呟かざるをえない。

『世界ことわざ比較辞典』の監修者、時田昌瑞さんから、電話で企画の話聞いたときのことを忘れられない。正確な言葉はもはや定かではないが、場所は自宅の台所であった。ことわざの国際比較と聞いて、何とワクワクしたことか。思わず武者震いしながら、時田さんの指にとまると、ことわざ探しと比較検討の旅を一緒にしようと思った。

データに書き込む段階に入った。全てに原語をつけていくのだ。また外国語の同一のことわざは、日本語の複数の項目で扱われないことになり、まず担当言語内で、のちに他の言語との調整も続けられた。記入は原始的なリレー法、いわば積み立て方式で、一つの言語の担当者が、あ行くわ行まで書き込むと監修者に戻し、また次の言語の担当者に回された。塵も積もれば山となり、書き込みも積もれば本となる。但し、それぞれの事情もあり、早く仕上げる人もいれば、とてつもなく時間をかける人もいた。「再修正したい」と頼んでも、数か月、待たなけ

まず、日本ことわざ文化学会の分科会として、毎月の例会の前に検討会が始まった。最初は一〇言語か、もっと少なかったかもしれない。私はドイツ語で参加した。選定された日本語のことわざに対して、それぞれ対応表現を持ち寄った。英語のように、ことわざ辞典が日本でもたくさん出ているものもあれば、原語や英語訳の辞典だけであったり何もないに等しかったりと状況はまちまちである。ドイツ語の場合は辞典類に恵まれていたのが、先人の仕事を拾い上げていくのが初めの一歩だった。そして、検討会で日本語の説明を直接聞き、他言語の表現を知

ればならないほどであった。

さらに、当初は三部構成をめざしていた、これは第一部に相当するものであった。第二部は三〇種の動物のことわざ、第三部はそれぞれの言語特有のことわざを対象とした。しかし、あとから参加した言語がいくつもある上、担当者の作業スピードに違いがあり、全体は一律に行かない。とくに第二部と第三部には難問が生じて、そのまま同時に進めることができなくなった。やむをえず三部立ての方針を変えて、第一部だけ先行することになった。

こうして、道中、山あり谷あり、難所

## 加藤尚武著作集

全15巻完結

(第15回配本)

### 第15巻 応用倫理学 6800円

著者が日本で紹介、開拓した生命倫理学、環境倫理学の基本的視点を総括し整理するとともに、そこからさらなる発展をめざして、人間をふくむ生物の存続、地球環境、世代間倫理などの課題を克服するための合意形成やルール設定などの具体的な方策をうけて応用倫理学の知見を現実の諸問題に応用するさまざまな議論のありがたが提示される加藤倫理学の到達点。 6800円

【既刊本】

第1巻 ヘーゲル哲学のなりたち 5800円

第2巻 ヘーゲルの思考法 6800円

第3巻 ヘーゲルの社会哲学 5800円

第4巻 よみがえるヘーゲル哲学 5800円

第5巻 ヘーゲル哲学の隠れた位相 6800円

第6巻 倫理学の基礎 5800円

第7巻 環境倫理学 6800円

第8巻 世代間倫理学 6800円

第9巻 生命倫理学 5800円

第10巻 技術論 7800円

第11巻 経済行動の倫理学 6800円

第12巻 哲学史 7800円

第13巻 形と美 6800円

第14巻 平和論 6800円

## 岸辺のない海

石原吉郎ノート

郷原宏著

現代詩の世界のなかでも独特な詩情と透徹した世界観をもって生き抜いた伝説の詩人の力作評伝。数多ある石原吉郎論の決定版。 3800円

## 詩人の妻

【緊急重版5刷】

高村智恵子ノート

郷原宏著

高村光太郎の妻にして『智恵子抄』のヒロインである智恵子をひとりの女として捉え、その生涯を追跡する迫真の長篇評伝。1983年のサントリイ学芸賞を受賞。 2800円



未来社

〒156-0055

東京都世田谷区船橋1-18-9

TEL.03-6432-6281

http://www.mirai-sha.co.jp/ 表示価格は税別

がいくつも現われて、谷底に落ちそうになつたり、立ち止まつたりもした。実際、離脱者や担当の交代もあり、試行錯誤の連続であった。もちろん大変なことばかりでなく、心楽しいこともある。あとから、アフリカのチガ語が加わったときは私も狂喜した。文字のない言語のこゝろが、この比較辞典に加わったのだ。その発想のユニークさには驚かされた。世界は広い。またラテン語、古典ギリシャ語が入ったことで、ヨーロッパ諸語の根っこを見据えることができた。やはり古典語の影響は今日に至るまで大きいことがわかる。

ことわざ積み立ての段階を終え、さらに歩を進めて、ゴールが見えてきた矢先、最後のハードルが現れた。この時までは、各言語で、形容詞や副詞の有無、名詞の微妙な違いなどに目をつぶって、意味の共通性に力点を置く統合訳に向かっていた。定訳があるものはそれに従った。そのため項目によっては、全く同じ

言い回しがずらりと並ぶことになった。いわば金太郎飴のような翻訳と化したのだ。これで国際比較といえるのか？結局、発想を変えて、「定訳から離れて、原語に即した訳でことわざの文体へ」と軌道修正がなされた。

これが、けっこう難題であった。定訳から離れて直訳する。そこまではよい。但し、ことわざの文体にするのが一筋縄でいかないところだ。ことわざの翻訳は、技術翻訳とは違って、やはり口調のよさや技巧的な要素が入ってくる。いわば調子と意味の「二兎」を追うことになる。この翻訳の巧拙がことわざの命に関わることは、これまで外国語から日本語に取り入れられた例から見ても明らかだろう。

たとえば、「一石二鳥」。これは、今日、日本で最も使われることわざだといふが、ヨーロッパからの伝来で、元々、翻訳だったことなど、私たちはもはや意識することもない。日本に入った幕末期

には、「石一つにて鳥二羽を殺す」と訳され、時を経て、四字熟語に落ち着いた。文句なしに極めて巧みな言い回しといえる。

個人的にとても印象深いのは、「下手な鉄砲も数打ちや当たる」であった。最初、この項目には、「見えない鶏も穀粒をみつめることがある」をドイツ語で入っていた。ところが、このことわざがヨーロッパからの翻訳の可能性ありと聞いて、調べたところ、「何度も撃つ者は最後に当たる」が英語と同様にみつかった。「下手な鉄砲」は和訳する際に加えたのだろうか？ 加えたと日本語として具体的に親しみやすい。たかが翻訳、されど翻訳。ことわざの多くは作者がわからず、ましてや訳者は言わずもがなだが、成り立ちに思いを馳せたくなる。

いただきたい。そして、各言語の担当者が定訳から離れて、新しい訳にトライしたり、やはり定訳に戻ったりして、一様でなくなった自由な表現を寛容性と共に楽しんでほしい。寛容性と書いたのは、新しい訳には冒険も含まれるからだ。

『世界ことわざ比較辞典』では、時田さんの長年の豊富な用例収集に基づき、常用の度合いが五つのランクに分けられたほか、出自や早い用例も示された。海外伝来、日本独自のものを問わず、今日、どれも日本語として日常的に使われているものばかりである。そこに、世界の表現が並び、まるでことわざの森が広

がっているようではないか。言葉や地域は異なっても、それぞれのことわざ、いわば森の木々がつながっている。

私は芝居や歌舞伎が好きでよく見に行くが、作品によってことわざに次々と出会う。指折り数えていても、終わってしまえば全てを覚えていくわけではない。自分の記憶力の悪さに衝撃を受けると同時に、日本語の台詞の自然さゆえだろうと感心もする。

その後、私も時田さんを見倣って、記録、収集を自分なりに行うようになった。日々、耳にし、目にし、口にすることわざを意識して実際に記していく。そ

うしたら、カラスが鳴かない日があっても、ことわざに触れない日などないといえるほどであった。新聞や雑誌からノートに切り貼りし、テレビでのインタビューや会話、メールの実例も書き留める。海外に出かけても変わらぬ。ことわざは世界中で生きていくのだから。昨年にはブータンに行く機会があり、現地のゾンカ語のことわざを英語で聞いた。すぐにメモしたことはいうまでもない。その一つが今でも胸の中で響いている。

「言葉一つは黄金百より重し」と。

(ふじむらみおり・ドイツ語翻訳者)

400年  
法藏館  
http://www.hozokan.co.jp

## 敦煌莫高窟と千仏図

規則性がつくる宗教空間

末森 薫著

千仏図は単なる装飾ではなく、様々な情報を含んだ、窟空間を創出するうえで欠かせない図像であることを解明した、気鋭の研究成果。二一、〇〇〇円



## 曇鸞浄土論註の研究

親鸞「凡夫が仏となる」思想の原点

小谷信千代著

往生浄土の意義を正しく理解するために、浄土教の原点である「浄土論註」を精緻に読み解き、他力往生の根源的意義を明らかにする。八、〇〇〇円

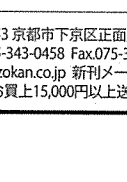


## 唐中期浄土教における善導流の諸相

「念仏三昧至王論」と「念仏鏡」を中心に

加藤弘孝著

中国仏教史変革の時代に当たる唐中期の善導流の浄土教家の思想的特徴を考察して唐中期仏教全体の様相を浮き彫りにしていく。八、五〇〇円



〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入  
Tel.075-343-0458 Fax.075-371-0458  
info@hozokan.co.jp 新刊メール配信中!  
税別 お買上15,000円以上送料無料!

図書館  
2020 4月